

追悼 山本玉樹さん

平和と真理について
Be Ambitious
でなければならない
真理を壊す者に対して
闘っていかなければならない

山本玉樹

事務局たより 号外 2026年3月10日
北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会・事務局

目次

1, はじめに 山本玉樹さんと山野井孝有さん	2
2, 山本玉樹さんと「宮澤・レーン・スパイ冤罪件」	5
3, 山本玉樹さんの活動の軌跡	8
4, 論考「北大における外国人教師」山本玉樹	24
5, 寄稿 北大恵迪寮歌作詞者・山本玉樹さんを讃える	29
山本玉樹さん追悼集発行にあたって	32

山本 玉樹さん（やまもと・たまき）元北海道大学講師、科学思想史。2日死去、96歳。家族葬を行います。通夜は5日午後6時から、葬儀は6日午前10時から、いずれも札幌市西区福井4丁目5の14のファミーユふくいホールで。

北海道大学教職員組合委員長、「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」代表、「宮澤・レーン事件を考える会」代表幹事などを歴任しました。編著書に『W・S・クラーク博士論文集』。

(しんぶん赤旗 2026年2月5日)

追悼 山本玉樹さん



北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会・事務局

1. はじめに 山本玉樹さんと山野井孝有さん

山本玉樹さんは、次項に記してあるように1980年代後半から、上田誠吉弁護士とともに、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相を糾す運動を粘り強く展開していました。一方、山野井孝有さんが「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を知った出発点は、ある偶然の出来事からでした。その発端と組織的な活動をはじめた経過を簡単に紹介しておきます。毎日新聞OBの山野井孝有さんの長男で登山家の泰史さんは1985年6月、アメリカ・コロラドでロッククライミング中に転落し、ボルダーの病院に収容されました。この時、面倒を見てくれたのがボルダー在住の秋間美江子さんでした。秋間さんは、山野井孝有さんに「私の兄はスパイとされた宮澤弘幸です」と伝えました。以後、山野井さんは、常圓寺に眠る宮澤弘幸さんの墓参を続け、秋間さん夫妻と家族ぐるみの交流を重ねていました。2012年秋、山野井さんは美江子さんから、高齢になってきたから、兄の遺品アルバムを北海道大学に寄贈したいとの相談を受けました。

こうした経過を経て、2012年の秋間美江子さんと山野井孝有さんの北大訪問、そして『北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会』結成へとつながっていきました。

<秋間美江子さんを囲む夕べ 2012年10月23日・札幌>

秋間美江子さんが北海道大学訪問のため、札幌に来ることを知った関係者たちは、前日の10月23日夕、集まって旧交を温めました。山本玉樹さんと山野井孝有さんはこの日、はじめて出会いました。



<参加者> 秋間美江子、山野井孝有、井上勝生（北海道大学名誉教授）井上高聡（北海道大学大学文書館）山本玉樹（北海道大学元講師）井上雄一（北海道新聞記者）岩本勝彦（弁護士）郷路征記（弁護士）庄司清彦（NHK記者）沼田勇美（北海道大学総合博物館）坂本和昭（坂本商事社長）夫妻、刈谷純一（毎日OB）根岸正和（毎日OB）伊藤直孝（毎日新聞北海道記者）（敬称略・順不同）

<宮澤さん遺族、北大にアルバム贈呈 2012年10月24日・札幌>

2012年10月24日、秋間美江子さんは山野井孝有、山本玉樹両氏と一緒に北大を訪問。新田孝彦・副学長、白木沢旭児・教授、井上高聡・北大文書館員と会い、兄・宮澤弘幸の遺品アルバムを贈呈した。その上で、兄の退学処分撤回と名誉回復を求め、北大は「調査したい」と回答した。

このアルバム寄贈は、北海道新聞、朝日新聞、毎日新聞、NHKが取材し報道した。



アルバムの1ページ

2012年(平成24) 10月24日

戦時中、北大生が投獄された「レーン・宮澤事件」

遺族、アルバム寄贈

戦時中、軍事機密を米国人教師に漏らしたとしてスパイ容疑に問われ、投獄された北大生・故宮澤弘幸さんの妹で米国コロラド州在住の秋間美江子さん(85)が24日、北大文学文書館(札幌市北区)を訪れ、宮澤さんの遺品のアルバムを同館に寄贈した。秋間さんらは、北大時代の宮澤さんについて説明し、大学側に事件についての調査を求めた。

この事件は「レーン・宮澤事件」と呼ばれる。日米開戦後の1941年12月8日、宮澤さんは北大予科の英語教師だったハロルド・レーンさん(妻のボリンさんと共に軍機保護法違反などの疑いで逮捕された。懲役15年の判決を受けた)が取られたが、戦後には釈放されたが、獄中で肺結核を患い、47年2月に27歳で死去した。

80年代に東京の故・上田誠吉弁護士が冤罪事件として掘り起した。根拠に飛行場が

あることなどをレーン夫妻に漏らしたとされたが、当時、公知の事実だったという。この日の贈呈式では、北大副学長で大学文書館長の新田孝彦教授がアルバムを受け取った。宮澤さんの北大予科時代のもの、学校生活や冬山登山、旅行などの様々な写真が収められている。

後、秋間さんは兄が逮捕された時の北大側の冷たかった対応について言及した。「私の両親は『北大から放り出されたという感じだった』と言っていました。当時の学長(総長)に『何で放つてくれないのですか。あなたの学校の学生だったじゃないですか』と話す。『いいえ、退学しています』と言われました。私たちは、退学した覚えはないのです」

秋間さんに付き添った友人の山野井孝有さん(80)は「千原市在住。11は、秋間さんの71年間の苦しみは誰よりも知っている。この機会に北大としてこの事件について改めて調査を」と求めた。

新田館長は「事件は、上田誠吉先生の仕事で冤罪であることは完全に明らかになったと思う」と話し、今後の大学史の記述などでの見直しを示唆した。しかし、大学として「調査については、『どうするかの考えをいきたい。現時点では明確な約束はしにくく』と述べるにとどまった。

大学に調査求める

<北海道大学訪問報告会 2012年11月12日・新宿 常圓寺>



札幌から沢山の資料を持って駆けつけ、発言した山本玉樹さん（北海道大学総合博物館資料研究員）

秋間美江子さんと山野井孝有さんが10月24日に北海道大学に宮澤弘幸さんの遺品アルバムを寄贈したことを報じた北海道新聞、朝日新聞、毎日新聞の記事は、東京でも注目された。そこで千代田区労協事務局長の水久保文明さんが中心となって、新聞労連はじめ関係団体に呼びかけて、新宿・常圓寺で「報告会」を開催、30人が参加した。山野井さんが秋間美江子さんと北海道大学訪問に至った経過を報告。秋間美江子さんは「私のように苦しむスパイの家族を二度と作らないように、みなさん頑張ってください」と訴えた。

札幌からかけつけた山本玉樹さんは、上田誠吉弁護士の著書『ある北大生の受難』をもとに報告した。続いて、東京合同法律事務所の藤原真由美弁護士、国民救援会前会長の山田善二郎さん、治安維持法国家賠償要求同盟の藤田廣登さん、1950年のイールズ闘争で北大から退学処分とされ、三鷹事件真相追及活動をしている梁田政方さんらが、この事件の真相究明の重要性を訴えた。こうした発言を通じて、宮澤さんの名誉回復を求め、秘密保全法阻止のための運動組織の結成の必要性が高まった。



2. 山本玉樹さんと「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」は、1941年12月8日、国家権力が「軍機保護法」違反を口実に北海道帝国大学の教員と学生に襲いかかった弾圧事件でした。太平洋戦争開戦と同時に、戦争体制強化を狙いに強行した全国一斉検挙の一環で、北大関係では宮澤、レーン夫妻ら7人が不当検挙の犠牲となりました。

これに対し、当時の北海道帝国大学は、弾圧当局に対する抗議はおろか、自大学の教員・学生の保護にも真偽の確認調査すらもしていませんでした。この国家権力に隷従する姿勢は、戦後、自由と自治を取り戻した新学制の北大となった後も引き継がれ、無視と沈黙を重ねてきたと言わざるをえません。

この冤罪事件に究明の光を当てたのが、上田誠吉弁護士と藪下彰治朗・朝日新聞記者でした。上田弁護士は1986年2月に『戦争と国家秘密法—戦時下日本で何が処罰されたか』を著し、藪下記者は同年10月に企画連載「スパイ防止ってなんだ」を記事化し、この中で宮澤・レーンを取上げています。上田弁護士は、このあと宮澤弘幸に特化した『ある北大生の受難』を刊行していますが、山本玉樹さんは、この上田弁護士の札幌における取材に全面協力しています。この経緯からも、戦後の北大で最初に「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を実地に発掘・調査したのは、山本玉樹さんであるといっていいいでしょう。

一方、『戦争と国家秘密法』は、宮澤弘幸の実妹・秋間美江子さんの夫・秋間浩さんの目にもとまりました。秋間浩さんは、美江子さんが藪下記者の取材を受けたことから事件の重大性を心に刻んでいましたが、『戦争と国家秘密法』を読んだことで、思い切って上田弁護士宛に手紙を送り、事件のさらなる究明を願い、世に広めることを期待しました。

上田弁護士は若干の曲折はあったようですが、引き受け、1987年9月28日、朝日新聞社から『ある北大生の受難—国家秘密法の爪痕』を刊行しました。これは、国家権力による冤罪の構造解明を具体的事実・事例を基に正面から捉えたものとなり、引き続き検証活動の原点ともなりました。

ただ、この刊行時点では、国家権力の底意が現れた1審判決の原文、さらには「ポーリン・レーン手記」など重要文献がまだ埋もれたままだったことから、宮澤弘幸の検挙時の状況に事実誤認があるなど、後世への課題を残してしまいました。以て、本会の真相究明活動も、この延長線上にあると言ってよいでしょう。そうした課題も含めて、上田著作は貴重な原典であり、1988年刊行の『人間の絆を求めて—国家秘密法の周辺』とあわせ、上田3部作となっています。

山本玉樹さんは、こうした上田弁護士の活動を支援し、またその成果を運動によって世に広めることに尽力してきました。これは誰もが知るところであり功績です。上田弁護士は『ある北大生の受難』の「あとがき」で、次のように書いています。

宮澤事件については、まだ判っていないことがたくさん残されています。故レーン夫妻のことまで掘れば、判っていないことははるかに増大します。



故宮澤弘幸さんが北大時代に、遠友夜学校の教師をしたことがあるのではないか、と思って調査しました。北大の山本玉樹さんはとくに熱心にこのことを調査なさいましたが、遂に確認することができませんでした。

この学校は、1894（明治27）年に新渡戸稲造が今の札幌中央区南4東4、中央勤労青少年ホームのある場所に創設し、1944（昭和19）年間で続けられた夜学校で、たくさんの北大生が勤労青少年のために、その教師を勤めました。秋間さん夫妻と私たち夫婦は、（1987年）7月9日、山本玉樹さんの案内でここを訪ね、新渡戸稲造と北大生たちの努力の跡を偲びました。もしそのことが確認されたと、故人の人間像はまた別の広がりを持って捉えられたかもしれません。

というわけで、この本はその取り上げた主題について、新しい事実を探求するための素材を提供するものになりうれば、幸いです。また秋間さん夫妻が北海道各地を回られ、阿寒湖に立ち寄られたことは、本文末尾に書いた通りですが、実は時を同じくして、阿寒湖の東、矢臼別演習場にむけて、陸路、海路を通る陸上自衛隊の「北方機動特別演習」が展開されておりました。

これらはもちろん、秋間さん夫妻とはまったく関係のないことです。しかし北海道はいま、対ソ作戦の基地として、いやその戦場として見立てられています。これらの最近の状況も念頭においた叙述をしたかったのですが、果たせませんでした。もう一つこの本のサブ・テーマとして故宮澤弘幸さんの北方少数民族への関心とあわせて、国家秘密法と北方少数民族との関連を考え合せてみたかったのですが、それも私の力を遥かに越えておりました。

東京にいて日常の仕事をしながら、四、五十年前の北海道での出来事を短い期間に調査することは、思いの外、困難なことでした。しかし、たくさんの人たちのご協力をいただきました。

まず札幌の山本玉樹さんです。北大で研究と教務の合間を縫って、戦時下の北大事情をお調べになりました。この本で紹介した「北大新聞」や「北海タイムス」の記事の検索は、すべて山本さんによるものです。この仕事のできたことの半ばは、山本さんのお力です。有り難うございました。

当然のことながら、秋間美江子さん、秋間浩さん夫妻のご協力がこの本を生みだしました。……故宮澤弘幸さんと青春期の友情を共にした人々と故レーン夫妻、故ヘルマン・ハッカーさんを師と仰ぐ方々から、朝比奈英三さん、小沢保知さん、東晃さん（北大名誉教授、国際基督教大教授）、松本照男さん、滝澤義郎さんをはじめ、多くの方々から沢山のことを教えていただきました。それに札幌弁護士会の方々の調査からも、多くのことを拝借させていただきました。

とりわけ精力的に調査に打ち込まれた郷路征記さん、フィレンツェでマライーニさんに会ってこられた高橋剛さんたち、宮澤事件の弁護にあられた斎藤忠雄さんから貴重な事実を教えていただきました。それらのことをお許しいただいた札幌弁護士会と会長の藤本昭夫さんにお礼を申し上げます。

*

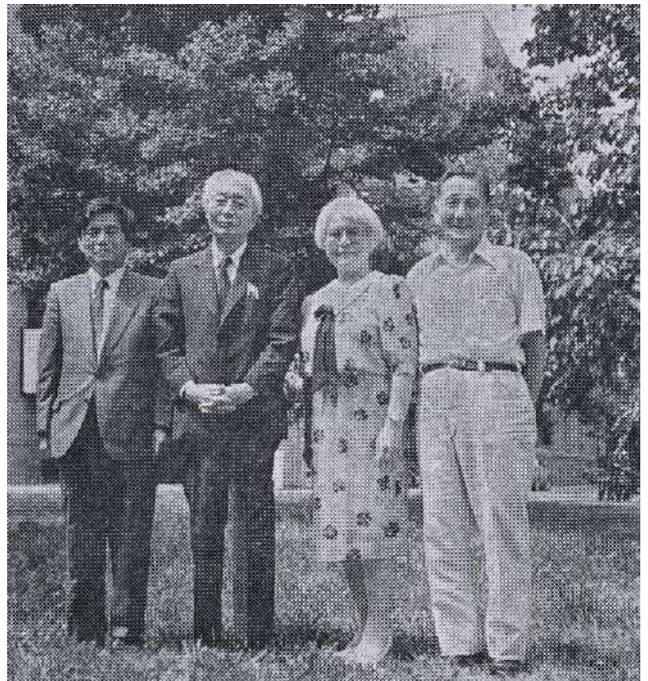
上田弁護士の没後、ご遺族は「宮澤・レーン事件」に関するすべての資料を北海道大学大学文書館に寄贈されました。文書館員・井上高聡さんは、それを整理・分析して大学文書館年報（2012.3.31）に「[[目録] 上田誠吉旧蔵宮澤・レーン事件関係資料」として記載し、公開しています。ここには、『ある北大生の受難』刊行直前まで、上田弁護士と山本玉樹さんが交換した手紙18通の目録も掲載されています。

1987年当時、秋間夫妻、上田弁護士、そして山本玉樹さんらの徹底した調査と行動があつたにもかかわらず、事件発生当時と戦後の北海道大学は、ハロルド・レーンさんを戦後に再招聘した以外は、自学の教員・学生が弾圧されたことの調査も、名誉回復のための措置も一切しませんでした。北大元総長2人も呼びかけ人となって推進した「心の会の碑（仮称）」建設のための敷地提供などの協力要請に対しても問答無用とばかりに拒否しました。これらはなぜなのか、強い疑問を抱くのです。

北海道を訪問した秋間夫妻を迎えた関係者と山本玉樹さん

秋間夫妻は、1987年7月7日から約一週間にわたり北海道を訪れました。7月8日夜には札幌で秋間夫妻、宮澤弘幸の北大旧友、小澤保知、滝澤義郎夫妻、松本照男、若林司朗、弁護士だった斎藤忠雄、上田誠吉さんらが出席して、「秋間美江子さんを囲んで」を催しました。7月9日夜は、札幌市共済ホールで750人の市民が参加した「国家秘密法に反対する市民集会—宮澤事件の真実」が催され、秋間美江子さんが「わが兄宮沢弘幸とわたし」を語りました。この集いに向けて、フィレンツェからメッセージを寄せフォスコ・マライーニは、「宮澤さんは決してスパイではありません。レーン夫妻との交友は、潔白であると私は確信します。私は、彼の立場は彼のとらわれない自由な性格のゆえに、危うくなったのではないか、と思います」とありました。（「ある北大生の受難」から）

続いて秋間夫妻は、7月11日には北大生活協同組合の、7月13日・函館、14日・釧路、17日・旭川のそれぞれ弁護士会が主催した国家秘密法反対のための集会に出席し、宮澤事件を語りました。この北海道訪問中に撮影された写真を紹介します。



上田誠吉著『ある北大生の受難』198頁
に掲載されている写真



上田誠吉著『人間の絆を求めて』174頁
に掲載されている写真

上=左から郷路征記、上田誠吉、秋間浩、同美江子、小澤保知（宮澤弘幸の友人）鎌内啓子（文化放送）、北大総長。下=左から山本玉樹、郷路征記、秋間美江子、上田誠吉

この2枚の写真は、秋間美江子さんが山野井孝有さんに託した写真の中からです。

3. 山本玉樹さんの活動の軌跡

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会 結成

2013年1月29日 札幌・エルプラザ

『北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会』は、山本玉樹さんと山野井孝有さんを代表に、2013年1月29日、札幌で結成されました。以来、真相究明に尽すと同時に、北海道大学（北大）に対し、冤罪犠牲者・宮澤弘幸の北大生としての名誉回復を求め、さらには2012年暮れに発足した第2次安倍内閣による「秘密保全法」制定策動に警鐘をならす運動等を展開してきました。

【結成時幹事会】◇代表＝山本玉樹（北大0B） 山野井孝有（毎日新聞0B）◇幹事＝大住広人、寺沢玲子、刈谷純一、坂本和昭、橋本修二◇事務局長＝福島清（東京）◇同次長＝根岸正和（札幌）、水久保文明（東京）。のち2013年12月に奥井登代、2014年3月に北明邦雄が幹事に加わり、刈谷、橋本は故人となった。2016年8月、幹事会を解消、以後、事務局を軸に運動を展開。事務局は東京・千代田区労働組合協議会事務所内。

以降、代表としての山本玉樹さんは、常に背広にネクタイを締め、誠実に発言する姿勢を貫き、山野井孝有さんとともに、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の真相を糾す行動の先頭に立たれました。



『北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会』結成集会 2013年1月29日・札幌
～背景の真っ白なキャラコ布幕の揮毫は山本さんの筆～
(左から、水久保文明、坂本和昭、山本玉樹、山野井孝有、福島清)



結成集会の一月後、宮澤弘幸命日の2月22日に発行した冊子（24頁の山本玉樹さん論考参照）



早期の名誉回復誓う レーン・宮沢事件 団体が設立集会

太平洋戦争中の冤罪事件として知られる「レーン・宮沢事件」を全国に発信する団体の設立集会が29日、札幌市内で開かれた。参加した市民約30人が、スパイに仕立てられ逮捕された元北海道帝國大（現在の北大）生の宮澤弘幸さんの早期の名誉回復を誓い合った。

「北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会」で、札幌と東京を中心に活動する。北大に対して宮澤さんの退学を撤回するよう求めることも、同事件のパンフレットも製作する。共同代表を務める札幌市の山本玉樹さん（83）は、宮澤さんが同帝大講師のレーン夫妻に根室の海軍飛行場に赴いて話したことが逮捕のきっかけになったことについて、戦前に米国の海軍武官と同飛行場に案内するよう、旧日本軍が当時の根室市長らに依頼した文書が見つかったと説明。「国」を「秘密」を編み出したのに、なぜ宮澤さんが逮捕されなければならなかったのか」と、あらためて宮澤さんの逮捕の不当さを訴えた。



市民団体の結成集会であいさつする山本玉樹さん（右から2人目）。右端は山野井孝有さん＝札幌市北区

「レーン・宮沢事件」 名誉回復へ市民団体 北大生の退学撤回要求

戦時中、軍事機密を米国教官団に漏らしたとしてスパイ容疑に問われ、投獄された北大生の故・宮澤弘幸さんの名誉回復を求める市民団体の結成集会が29日、札幌市北区の札幌エルプラザで開かれた。約40人が集まり、北大当局に宮澤さんの退学撤回による名誉回復を求めることなどを決めた。

事件は「レーン・宮沢事件」と呼ばれる。戦後16年、イ冤罪事件」の真相を広める会」は、元毎日新聞東京本社印刷部長の山野井孝有さん（80）と北大進友会クラブ1期生代表の山本玉樹さん（83）の2人が代表になった。2人は昨秋の秋間さんと北大側との面談にも同席している。

山野井さんは結成集会で、「スパイの家族とされた秋間さんの悲しみと苦しみを引き継ぎ、この会を立ち上げた。皆さんの力を貸して欲しい」とあいさつした。問い合わせは山本さん（011・661・6332）へ。（植村隆）

「真相を広める会」結成を報道した新聞

(右) 朝日新聞 2013年1月30日
(左) 北海道新聞 同

北海道大学へ「申入書」―「名誉回復と謝罪」を要求



結成総会後の2月26日、山本、山野井両代表と根岸正和事務局次長（上写真左から）は、北大を訪問し、①宮澤弘幸が1937年4月1日に予科入学して以来1947年2月22日に死亡するまで北海道大学（旧北海道帝國大學）の学生であったことを確認する②この間、これと矛盾する学内学籍簿等の記載をすべて撤回する③宮澤弘幸の身分と名誉を損なったこと

を謝罪する④本件一連の事実について、北海道大学として適正に位置付け、宮澤弘幸ら冤罪に屈しなかった関係者一同を顕彰するなど5項目の申し入れを行った。

応対した太田裕美総務課長補佐は、約40分間の抗議と申し入れに対して、終始無言。両代表は、①申入書への回答は4月中旬までに。②回答は学長が行うこと。その際はマスコミの同席取材を受け入れること。③「真相を広める会」役員と同席を認めること――の3点を要請した。

さらに完成したばかりのパンフ「スパイ冤罪 宮澤・レーン事件 真相を知ってほしい」を手渡し、北大関係者はぜひ読んで欲しいと要請した。山野井代表はコロラドの秋間美江子さんから届いた手紙のコピーと、2月23日の「宮澤弘幸さん追悼・顕彰 秘密保全法を考える集い」参加者に贈ってくれたチョコレートを、学長に渡すよう要請した。

宮澤弘幸さん追悼・顕彰 秘密保全法を考える集い

2013年2月23日 新宿・常圓寺



「北大生・宮澤弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を求める会」は、2月23日午後、新宿・常圓寺で表記の集いを開催した。当初、宮澤弘幸さん命日の2月22日開催を予定したが、会場の都合で1日遅れの開催となった。北海道大学OBはじめ66人が参加した。「週刊金曜日」「十勝毎日新聞」「しんぶん赤旗」の各記者が取材した。

冒頭、宮澤弘幸さんを追悼して黙祷。続いて山本、山野井両代表がスパイ冤罪事件の真相と家族の苦しみを訴え、大住広人幹事が北大に対する申入書の意義・目的を解説した。また泉澤章・弁護士（自由法曹団事務局長）が、再びこうした事件を引き起こす危険性がある「秘密保全法」が画策されている情勢とその内容について講演した。山野井孝有代表は、今後の運動展開に当たっての基本的な立場を以下のように<問題提起>の一つとして報告した。

質疑討論では、北大出身の濱口武人・弁護士はじめ、レーン先生から教えを受けたというOB、レーン先生の双子の娘と一緒に学んだというOBが当時の模様等を報告した。

最後に、北海道大学に対する「申入書」を全員一致で確認・採択した。



「今こそクラーク精神を」と開会挨拶する山本玉樹・代表



「秘密保全法阻止」を訴える山野井孝有・代表

北海道大学・三上隆副学長と初の交渉

2013年6月25日 北海道大学

北大生・宮澤弘幸の身分と名誉の回復にかかる問題で、6月25日、北海道大学（山口佳三総長）が対面回答に応じた。形は、これに先立つ北大による秋間美江子さん（宮澤弘幸の妹でアメリカ・コロラド州ボルダー在住）訪問の経緯等について説明する席との設定だったが、実質は「真相を広める会」が今年2月22日付で求めた「申入書」等に対する回答の一端と受け止められた。

もとより回答としては極めて不十分だったが、明確な文言として「事件を風化させないように努めます」とあり、また双方応答の中では「二度と戦争を起させない」という一点では冤罪を許さない共通基盤として一致していることが確認された。

添付された説明資料は退学願・復学願をはじめ10点に及び、事件の真相を究め広めるうえでも貴重な資料であることは間違いない。

北大はこれまで、学外とのかかわりを頑なに避けていた。それが2012年10月24日に、秋間美江子さんによる宮澤弘幸アルバムの寄贈を受け入れたのを機に動き、今回初めて、三上副学長自ら宮澤弘幸の眠る新宿・常圓寺の墓前に花を供えたうえでアメリカ・ボルダーに秋間さんを訪ね、宮澤弘幸の身分と名誉にかかる説明を新たに発見した文書に基づいて行い、同じ内容を学外の組織である当会に対しても

行った。これは生涯をかけて「二度と冤罪を起させるな、二度と戦争を起させるな」と訴え、いまでも労を惜まずにいる秋間美江子さん、その秋間さんの苦悩に寄り添って励まし続けている山野井孝有・当会代表、また北大の地元にあつて北大の姿勢を質し糾し続けてきた山本玉樹・当会代表らの地道にして突出した熱意、そして会員のみなさんの広く深い盛り上げの成果であると言える。

もちろん究極は国家権力による名誉回復と謝罪であり、開かれた窓は狭く、北大の回答はほんの端緒に過ぎません。



交渉の最後に、山野井代表が秋間美江子さんから託された記念品を三上隆副学長に贈った。その場面を秋間さんに送るための写真撮影を要請したところ、同席した総務課長はオフレコだと注文をつける異常な態度だった。

ハロルド・レーン、ポーリン・レーン夫妻 墓参

2013年6月26日 円山墓地



6月26日、午後からの拡大幹事会を前に円山墓地に眠るレーン夫妻墓参。右は北大寮歌「都ぞ弥生」を献歌する北大OBの山本玉樹代表（右）と刈谷純一幹事

この道は、いつか来た道 秘密保護法廃止 10. 10 シンポジウム

2013年10月10日・エデュカス東京



「秘密保護法断固阻止」が必要な2つの理由

1つは、憲法を踏みにじる悪法だからからです。憲法は「表現の自由」に代表されるように、国民をあらゆる束縛から解き放つことを保障し、また国家情報の公開を原則としています。この意味では、個別法そのものが、憲法の保障や原則を限定的に制限する性格を帯びています。とりわけ民衆取締りの目的を体した法律においては、その性格を強く持っています。従って、立法段階でどのように粉飾されようとも、それに惑わされることなく、丸ごと阻止しなければならないのです。

2つは、法は独り歩きするからです。成立の事前或いは事後に、どのように歯止めをかけても、一旦成立すると権力の目的によって際限なく拡大解釈され、歪曲適用され、ひいては冤罪を引き起こすのです。これは軍機保護法が踏みつけてきた道であり、裁判所までが墨付きを与えてきた道です。

いま、法律の拡大解釈・適用どころか、憲法までが歪曲され、憲法9条があるにもかかわらず防衛省や自衛隊が法によって大手を振り、さらに軍機保護法の再来を求めていることによって一層明らかです。

法ができれば、その法を拠り所として官僚機構が増殖し、官僚機構ができると貪欲に予算を抱え込み、それが戦争への道を開く実行部隊となるのです。軍機保護法によって引き込まれた「あの道」を二度と通らせないために、粉飾に惑わされることなく、丸ごと阻止しなければならないのです。

*

山本玉樹さんは、代表として東京での行事にもいつも出席されました。



この道は、戦争への道！ 秘密保護法阻止10.13札幌集会

2013年10月13日・札幌



札幌集会は、『宮澤・レーン事件』の教訓を蹂躪し、日本国民の一切の知る権利を剥奪し、日本をアメリカと共に戦争をする国に変えようとする安倍政権に対する怒りの告発で始まった。その中で、大洪水で来日できない秋間美江子さんからの『やめて！秘密保護法』のメッセージは、私達の平和への決意と団結を一層固いものにしました。

岸本牧師は、平和を創り出す人として、愛と真実を貫いたイエスキリストが、当時のユダヤの社会で「スキャンダラスな人」であったことの意義を強調され、『宮澤とレーン夫妻』の戦争不服従の闘いを継承し、安倍政権の暴挙を断じて許してはならないと強調。

今橋直弁護士は、主権者である日本国民の一切の知る権利を奪う『特定秘密保護法』の成立を企んでいるとその危険な内容を明らかにされた。

新海雅典神父は、レーン夫妻の双子の姉妹と高齢の父を親切に保護し面倒を見たのが、フランシスコ会修道院と札幌天使病院、カトリック札幌教区長戸田帯刀神父であったと報告されました。

戸田神父は、日本が始めた侵略戦争について「この

戦争には、勝算がない」とか、戦時中の軍の横暴についても平和主義的な意見を率直に述べていました。このような「反戦平和の言動」によって、札幌教区長を追われ、1944年9月、横浜教区長に異動させられました。このとき、戸田神父は頭髪を丸めて『私は、日本のため、世界の平和のために命を捧げます』と述べたと言われます。そして、敗戦の翌々日、戸田教区長が保土ヶ谷の教区長館に一人でいるとき、侵入してきた何者かによって射殺されたのです。射殺した弾丸は旧日本軍憲兵のものであった。この戸田神父の行動は、ある高位聖職者から『戸田神父は軽率だ』といわれた。新海神父は、この発言に対して厳しい批判をおこなわれた。そして、安倍政権の「戦争への道を開く『特定秘密保護法案』」を絶対に容認してはならないと強調された。

集会は、最後に「再び『宮澤・レーン事件』の悲劇を許さず、戦争への道を開く『特定秘密保護法案』・『憲法改悪』に断固反対する」の決議を採択して終了しました。集会参加者74人でした。

秘密保護法廃棄と「顕彰碑」建立を 12.8 札幌集会

2013年12月8日・札幌 北海道大学学術交流会館



12月8日、北海道大学学術交流会館第4会議室は、開会前から多くの参加者であふれた。集会は、山本玉樹・代表が開会挨拶と決意表明、羽部朝男・北海道大学教職員組合委員長が来賓挨拶をした。

北海道憲法会議事務局長の齋藤耕・弁護士は「この法律を実際に運用するのは公安警察であり、どうにでもできる。全弁護士が反対している。施行までに1年ある。『宮澤・レーン・スパイ冤罪事件』の真相を知らせて、いかに危険な法律かを国民に知らせることだ」と問題提起した。

続いて山野井孝有・代表が「真相を広める会」としての活動方針を提起した。質疑討論では北海道大学の学生が発言し、参加者の大きな拍手を受けた。最後に福島清・事務局長が「憲法破壊・日本を戦争する国に変える『秘密保護法』の強行可決に厳重に抗議する」との「真相を広める会」の声明を報告。

ついで戦時体制下でも国際友好を貫いた人々を顕彰する「心の会の碑」(仮称)を建設する運動を起すことを満場一致で採択した。

北海道新聞、朝日新聞、毎日新聞、NHK、ほっかい新報が最後まで取材した。参加者は約120人。会場カンパは35,405円寄せられた。

真理と平和のシンボル 心の会

戦中戦後に、北大で教鞭をとったレーン先生、ハッカー先生、太黒マチルド先生、マライーニ先生ら外国人教師を中心に、多くの学生たちが彼らのもとに集りました。その集りは「ソシエテ・デュ・クール(心の会)」とよばれました。彼等は国籍や立場の違いを超え、深い信頼と友情に包まれ、何よりも学問の真理と平和を大切にしました。

ここには、札幌農学校以来の教育思想である真理に倚って立つ自主独立の自修心が息づいていました。この精神こそ、クラーク先生から内村鑑三・新渡戸稲造・宮部金吾らへ、そして多くの卒業生へと誇り高く受け継がれてきたものであり、人間性を否定する戦争を根底において拒否する思想でした。

私たちは北大構内の外国人教師官舎があった林の一隅に「心の会の碑」(仮称)を建て、「スパイ冤罪事件」の犠牲者の名誉を回復し、レーン先生をはじめとする外国人教師と宮澤さんらの非戦・平和の営みを顕彰したいと考えています。それこそが、再びあの痛ましい事件を引き起こさせない誓いのシンボルとなるものだと思います。(呼びかけ文から)

宮澤弘幸 追悼・顕彰のつどい 「秘密保護法」を許さない！

2014年2月22日 新宿・常圓寺



「みなさん頑張ってくださいな。私みたいな悲しいスパイの家族を再び作らないために」——。宮澤弘幸の妹・秋間美江子さん（87歳）の声が会場に切々と流れた。宮澤弘幸 67 回目の命日である 2 月 22 日、菩提寺の新宿・常圓寺のホールは詰めかけた 140 人余でいっぱいとなった。



山野井孝有代表が開会挨拶。岸井成格・毎日新聞特別編集委員（左写真上）は「秘密保護法」は長い記者生活で経験したことのない危険性があると訴え、戸塚章介・新聞 08 九条の会事務局長（左写真中）は、今回の秘密保護法に対する反対運動は自発的になっていることが特徴だと報告した。山本玉樹代表（左写真下）は、1999 年のハーグ世界平和会議が確認した平和を求める世界の流れを情熱込めて訴えた。さらに北大構内に「心の会の碑（仮称）」設置を求める意義と思いを強調した。最後に「秘密保護法を廃棄させるまで運動を継続使用」とのアピールを採択した。



秘密保護法廃棄と宮澤弘幸の名誉回復を求める市民のつどい

2014年5月6日・札幌 北海道大学学術交流会館



『スパイの家族』の苦しみと怒り—秋間美江子さんの訴えを聞く』のローガンのもと、宮澤弘幸の母校である北大構内・北大学術交流会館で、5月6日午後1時から『秘密保護法廃棄と宮澤弘幸の名誉回復を求める市民の集い』を開きました。連休の真ただ中でしたが、市民、北大OBら240人が参加、用意した資料は完配となり、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件—引き裂かれた青春」パンレット140部も完売となりました。奥井登代幹事の司会で、ビデオ「レーン・宮澤事件—もうひとつの12月8日」の上映からプログラムに入りました。

挨拶に立った秋間美江子さんは、「私のような悲しい家族を二度と作らないでください」と、兄の悲惨と「スパイの家族」の苦しみを訴えました。そして「秘密保護法を廃止させるためなら、国会前で座り込みます」と決意を語りました。

秋間さんは東京新宿・常圓寺で開かれた「宮澤弘幸追悼・顕彰のつどい」の前日の2月21日に帰国。毎日放送ラジオ、毎日新聞等の取材のすべてに応じて、訴え続けています。

「宮澤事件は冤罪である」 三上副学長が表明

宮澤さん遺族同席で北大と交渉 2014年5月7日・北海道大学



5月7日午後2時から、秋間美江子さん同席の下で、「真相を広める会」と北海道大学との交渉が行われた。冒頭、秋間美江子さんが保管していた2冊の宮澤弘幸遺品アルバムを三上隆・副学長に贈呈した。副学長は「宮澤事件は冤罪である」と明言し、宮澤弘幸を顕彰し、次代の学生にその精神を伝えるために「宮澤賞」（仮称）を創設すると回答した。だが宮澤弘幸とレーン夫妻に対する謝罪の姿勢と言葉は見せなかった。

また、この日の交渉に先立って3月に発行した「北海道大学大学文書館年報」第9号で文書館助教・井上高聡氏は「大学が宮澤弘幸に関連して行った在学に関わる事務手続きには瑕疵はない。しかしながら、戦時中に在学生であった宮澤弘幸が不当に遇された際、大

学は全く無力であった。この点について、大学は歴史的事実として銘記しなければならない。今後、大学は、大学の歴史の中に『宮澤・レーン事件』を位置付け、風化することがないよう努力することが必要である」と記した点について質した結果、副学長は「年報では個人名だが創基150年の正史には北海道大学の見解として位置付けられる」と回答した。

「心の会の碑」（仮称）建立に協力を要請

山本代表は、前日の市民集会の席上全員一致で採択された宮澤弘幸を顕彰する「心の会の碑」（仮称）を北大構内に建立する件について、敷地提供などの協力を要請した。

「心の会の碑」(仮称)建立賛同者 350 余人に 北海道大学に全面協力を再度申し入れ

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会の山本玉樹代表、北明邦雄幹事、根岸事務局次長は9月30日、佐藤浩司・北大総務企画部総務課課長補佐に、別項の申入書と、「心の会の碑」(仮称)建立に賛同する350余人の名簿を手渡し、北海道大学として全面的に協力するよう申し入れました。

2014年9月30日

北海道大学

総長 山口 佳三 殿

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪
事件」の真相を広める会

代表 山野井孝有

同 山本 玉樹

「心の会の碑」(仮称) 建立について

標記につきまして、5月7日に行われた三上隆・副学長との話し合いの席上、前日の市民の集いで採択された「『心の会の碑』(仮称)建立にご協力を」との文書をお渡しして主旨をご説明し、5月28日には、山口佳三総長宛に、北海道大学構内・旧外国人教師官舎跡の一面に建立地を無償提供の要請書を提出しました。

以後今日まで、要請書の末尾に記した賛同人を募る運動を進めてきました結果、9月中旬現在、上田文雄・札幌市長、横山清・北大経営委員をはじめ、北大OB、各界有識者等350人から賛同が寄せられています。賛同文書には建碑を熱烈に期待する意見が多数記載されているとともに、建立資金ご寄付も届いております。

これまでの経過と現状を踏まえて、呼びかけ人とともに別紙の賛同者一同の名簿をお届けし、北海道大学構内・旧外国人教師官舎跡の一面に建立地の無償提供を、重ねて要請する次第です。

具体的には、「10㎡(3坪)程度の碑建設用地」の提供と、出来るなら碑周辺に一定程度の空間(例えば500㎡を小公園にするなど)の確保を要請します。

真理に倚って立つ自主独立の自修心を育むことを教育思想とする北海道大学として、まさに自主独立の精神に基づいて進めている「心の会の碑」(仮称)建立について、ぜひとも全面的なご協力を切に要望いたします。

なお、本件につきまして、寄せられた賛同の声をはじめ、私どもの思いを再度、お伝えしたく、10月中にぜひとも話し合いの場を設けていただきたく重ねて要請致します。



申入書を手にする山本玉樹代表(右)と北明邦雄幹事(北大前にて)

去る5月6日に北大学術交流会館講堂で開催した「秘密保護法廃棄と宮澤弘幸の名誉回復を求める市民集会」で採択された「『心の会の碑』(仮称)建立に協力を」アピールに対する賛同者は、350余人にのびりました。

そこで、この賛同者の氏名と碑建立のために必要な土地面積など具体的な内容をまとめ、北海道大学に対して再度協力を申し入れたものです。

今こそ、あの戦前の困難な時代に灯し続けた「心の会」の理想と情熱を再確認して、広く社会にアピールすべきです。引き続き、呼びかけに対するご賛同とご意見を募っています。事務局までお寄せください。

*

これまでに公表を承諾していただいた賛同者のお名前とともに、寄せられたご意見を紹介します。(略)

宮澤・レーン事件 秘密保護法廃止市民集会

2014年12月4日・北海道大学学術交流会館



基調報告をする
山本玉樹代表



12月7日、北大学術交流会館で開催した市民集会に参加した一同は、秘密保護法廃止のために、さらに力を合わせて活動していくことを誓い合いました。北海道大学に対しては「心の会の碑」（仮称）建立に協力するよう要請するとともに、碑建立の意義をさら広く世論に訴えていくことを確認しました。

左は、宮澤・レーン事件と特定秘密保護法について問題提起する齋藤耕弁護士。下は、集会を伝える12月8日付朝日新聞

レーン・宮沢事件 繰り返すな 北大で市民団体、特定秘密法に警鐘



第2次世界大戦中に米国人教師に軍事機密を漏らしたとして、軍機保護法違反容疑で北大生らが逮捕された「レーン・宮沢事件」。この北大生の名誉回復に取り組む市民団体が7日、特定秘密保護法の廃止を訴える集会を札幌市北区の北大で開き、約170人が参加した。

この市民団体は「北大生・宮沢弘幸『スパイ冤罪事件』の真相を広める会」。集会では、山野井孝有代表(82)が自分の戦争体験を振り返りながら、「(10日に)特定秘密保護法が施行されれば、再び同じような事件が起きるのでは」と警鐘を鳴らした。事件の記念碑の建立を北大に申し入れていたことについて、10月と今月に拒否されたこと明らかし、北大側に建立を引き続き要請するとした。

戦争への道を許さず、秘密保護法廃止を！

宮澤弘幸追悼・顕彰 2.22 のつどい 2015年2月22日・新宿 常圓寺



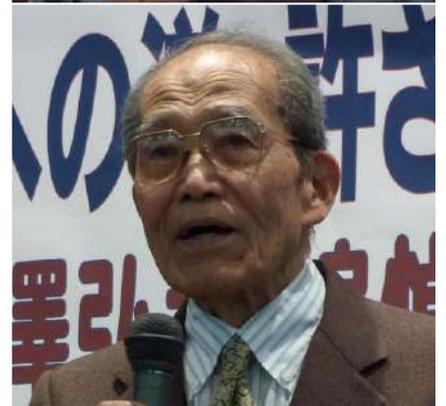
宮澤弘幸没後 68 年の命日である 2 月 22 日、新宿・常圓寺で開催したつどいには、95 人が参加しました。

冒頭、コロラド州・ボルダーから届いた秋間美江子さんのメッセージを紹介しました。秋間さんは昨年のこの集会に参加し、以後 5 月の札幌での集会やマスコミ取材に応じて、秘密保護法廃止を訴えました。今年もこの集会参加を熱望されていましたが、88 歳のご高齢のため断念されました。

つどいは最初に、清水雅彦・日体大教授が「秘密保護法が与える市民生活の影響—あくまでも廃止を求めて」と題して講演。国家秘密法制の経過と昨年 12 月施行された秘密保護法について問題点を詳細に指摘した上で、廃止に向けてあきらめずに声を上げ続けようと訴えました。

NHK「北海道クローズアップ」（2014 年 6 月 28 日）で放映された「スパイの妹、と呼ばれて～73 年目の宮澤・レーン事件」の DVD を見た後、山本玉樹・「真相を広める会」代表（右写真上）が「心の会の碑」（仮称）建立問題、山野井孝有・同（同中）が「戦争への道を許すな！」と題して特別報告しました。この日は、在京の北大 OB のみなさんが多数参加しました。

秋間美江子さんの夫・浩さんの実弟で、かつて北海道大学で教鞭をとった東京都立大学名誉教授の秋間実さん（同下）は「私は北大に 15 年いました。山本玉樹さんとは 50 年ぶりに感激の再会をし、他の OB のみなさんとも再会しました。みなさん方が美江子さんの無念を晴らすためにお力添えをしてくださっていることに大変感謝しております。私も及ばずながら非核の政府を守る会・神奈川などで仕事をしておりますが、これからも安倍ファシズムを倒すべくみなさまと一緒に、会員としても尽くしたいと思います。頑張りましょう」と力強く挨拶されました。



～戦争と平和を考える講演会～

この美しい地球を何時までも！

2015年8月29日・北海道大学学術交流会館



宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の 再来を許さない道民の集い

2015年12月6日・北海道大学学術交流会館



日本を再び戦争へ引きずり込む安倍暴走政権との対決の一環として、2年前の参議院で強行可決された秘密保護法の廃止を求める統一行動日である12月6日、本会は、スパイ冤罪の地、札幌・北大学術交流会館で、「特定秘密保護法廃止！ 安保法制＝戦争法廃止！ 宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の再来を許さない道民の集い」を開催。約120人が参加しました。

集いは、奥井登代・本会幹事の司会で開会。NHKビデオ「スパイの妹」と呼ばれて～73年目の宮澤・レーン事件（2014年6月放映）の上映後、山本玉樹・本会代表が開会挨拶。

荻野富士夫・小樽商科大学教授が「戦時下の言論・思想弾圧—宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の背景を考える」と題し、詳細な史・資料を基に、安倍政権下の政治・社会状況が日中戦争から太平洋戦争へと突き進んだ時代と極めて似ていることを論証、軍機保護法の実際、当時の学問と思想の状況、そして宮澤・レーン冤罪事件での欠かせない視点について講演。



特別参加した植村隆・元朝日新聞記者（写真）が、来期は北星学園大学と講師契約せず、提携校の韓国・カトリック大学の客員教授に就任するに至った経緯を報告、新しい一歩への意欲

を語ると共に、これまでの支援に感謝し、同時に札幌の地で起こした反不当攻撃裁判への支援を訴えました。

この他、北明邦雄・本会幹事が建碑運動について報告。根岸正和・本会事務局次長が決議を提案。満場一致で採択されました。

安倍政権下、秘密保護法・戦争法廃止の運動はいよいよ重要です。本会は、集い前の12月5日の幹事会で「会員個々の体力・気力に応じた手弁当方式の息長い取組みによって所期の目的を達成する」決意を軸とする今後の方針を決めています。

宮澤弘幸さん七十回忌墓参

2016年2月22日 新宿・常圓寺



上=左から山本玉樹、唐渡興宣、平野正美さん
下=同、奥井登代、山野井孝有、水久保文明さん

「宮澤・レーン事件を忘れないー北大OB／OGのつどい」発足

2016年2月22日 新宿・アイランドタワー「北海道」



山本玉樹さんも出席したこの日のつどいで「宮澤・レーン事件を忘れないー北大・戦後世代をつなぐOB／OGのつどい」が正式に発足した。以後、墓参とつどいを続けている。

4. 論考「北大における外国人教師」 山本 玉樹

札幌農学校の民主主義的思想の源流

宮澤弘幸を育んだ

「心の会（ソシエテ・デュ・クール）」

戦前、北海道大学には旧制高校に相当する予科がありました。そこには札幌農学校以来のヒューマンな知性あふれる教師集団がありました。

内村鑑三、新渡戸稲造と同期の植物学の宮部金吾先生、この宮部金吾先生に憧れて北大に入学した予科の植物学担当の鈴木限三先生、反ナチスのドイツ語教師・ヘルマン・ハッカー先生、英語のハロルド・レーン、ポーリン・レーン夫妻。

特にハッカー先生、レーン先生夫妻、それに小樽高商（現・小樽商科大学）の太黒マチルド先生を中心とする「ソシエテ・デュ・クール（心の会）」は、戦争への厳しい情勢の中でも、全学の学生に門戸を開き、美味しいコーヒーを提供していた。

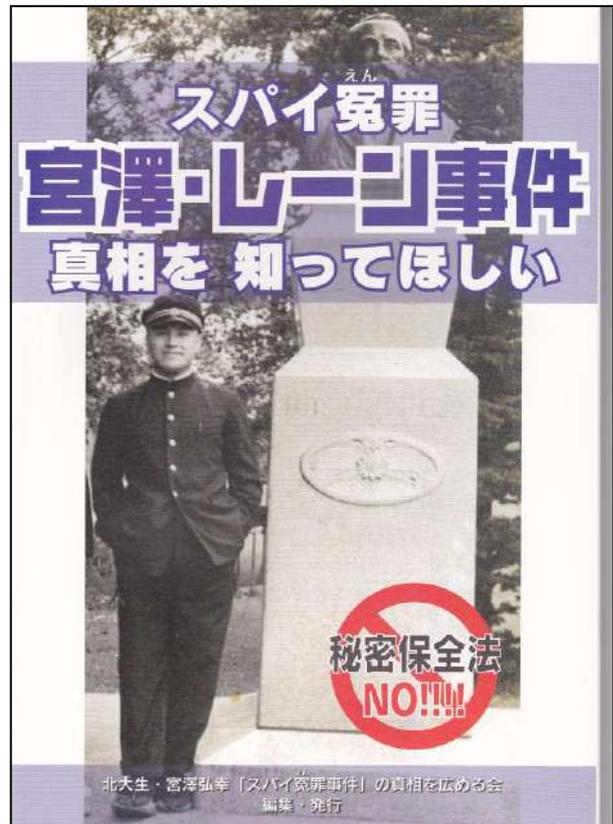
そこでは、クラシックが聴け、知性と人間性を深めるあらゆる問題について自由な討論がなされていた。クエーカー教徒で非戦平和主義者のハロルド・レーン先生と宮澤弘幸は、この会の熱心な存在であった。

以下に、この「ソシエテ・デュ・クール」を生んだ札幌農学校以来の、北大の民主主義的教育思想の背景について述べる。

矢内原忠雄は、1952年5月の東大五月祭で「大学と社会」と題して講演した。

「官学と呼ばれるもの歴史を見ると、明治の初年において日本の大学教育に二つの大きな中心があって、一つは東京大学で、一つは札幌農学校でありました。この二つの学校が、日本の教育における国家主義と民主主義という二大思想の源流を作ったものである」

「森有禮という有名な文部大臣がおりましたが、ドイツからハウスクネヒトという教育学者を招聘して、……。これ以来ドイツの国家主義的な教育の精神が日本の指導的な教育理念となり、その中心が東京大学でありまして、或いは加藤弘幸先生のような……国家主義の最も代表的な優れた人物が、東京



「真相を広める会」が刊行した最初の冊子。
山本玉樹さんはここに本稿を執筆した。

大学の総長として長年努力されたのであります」
「一方、札幌農学校は明治9年（1876年）の創立であります。その建学のために招聘されたのは、マサチューセッツ農科大学学長W・S・クラークであります。このため札幌農学校の制度と教育理念は、殆ど全くマサチューセッツ農科大学に範をとったのでありまして、アメリカの大学の自由主義的な個人個人の人間をのばしてゆくという、よい意味において個人主義的な教育でありました。クラーク博士が札幌農学校に残した感化は非常に深いものがあります。『禁酒禁煙の誓約』『イエスを信ずる者の誓約』という二つのカビナントを作り、クラーク博士をはじめとして、米人教師並びに学生全員が進んでこれに署名しました」と。

しかしいま、クラーク博士を日本に送ったアメリカは、人類の多年にわたって築いてきた国際的平和秩序・国際人道法を破壊し、単独行動主義に走っています。

クラーク博士

アメリカ独立宣言の精神を生きた科学者

札幌農学校に発した教育思想は、近代日本の教育思想の中で、決して主流とはなり得なかったが、日本の民主主義的教育思想のなかで、消し難い潮流を形成してきたといえる。

それは「紳士たれ！」の校是のもと「全人教育、フロンティアスピリッツ、国際主義、実学」を柱とする教育でありました。その札幌農学校の教育を指導したのは、マサチューセッツ農科大学学長W・Sクラーク博士であった。

クラーク博士の生きた時代は、どのような時代であったでしょうか？

クラーク博士は、1826年から1886年までの60歳の生涯を送られていますから、それは、まさに南北戦争の時代(1861年～1865年)、奴隷制が厳しく問われたリンカーン大統領の時代を生きたと言えますでしょう。

「黒人奴隷制を認めるか否か」が一人一人の人間の良心に厳しく問われ、独立宣言で述べられた民主主義の原則が、真にアメリカ民主主義の原則として貫かれているか否かが、厳しく問われ、試された時代でした。

1850年、逃亡奴隷取締法が制定されるや、アメリカの良心・エマーソンは、コンコードで「逃亡奴隷取締りについて」と題する講演を行い「自由を求めて千マイルの距離を攻撃されながら逃げてきた人を、マサチューセッツの人々は、駆り立てて捕らえ、元の犬小屋に戻すべきであると、この法律は規定するのです」「この法令は、あらゆる感情に反します。憐みの心に罰金を科し、慈悲を投獄するような法律をどうして強制することができるのでしょうか？」と。

また、H・B・ストウ夫人は、「アンクル・トムズ・ケビン」を著して、黒人奴隷制を糾弾しました。

このとき、クラーク博士は、リンカーン行政府の呼びかけに応じて、3000名の志願兵連隊を組織して参戦しています。

そして、母校アマースト大学の同窓会で講演し、奴隷制について質問されると、

「自分はアメリカの国旗に対する忠誠心は人後に落ちないが、呪わしい奴隷制をこの地上から払拭したかった」と断言しています。

帰国後、クラーク博士は「日本の農業」と題して講演をしている。

その中で、日本の封建遺制に触れ、「日本では動物を屠殺し、皮をはぎ、皮なめしをしている人は、(社会的)追放者とみなされて、いかなる法的権利も享受していない」「1872年アメリカを訪れた日本の大使節団(岩倉具視米欧使節団)は、合衆国大統領が、かつて皮なめし職人と知ってどんなに仰天したことか」と痛烈に批判しています。

わずか8カ月の日本滞在で、日本の封建遺制を鋭く洞察したクラーク博士のこの言葉は、南北戦争に参加し時代の試練と格闘した博士のヒューマニズムと民主主義精神の高さがいかなるものを証明しているといえましょう。

日本に伝えたキリスト信仰と民主主義の精神

クラーク博士は、帰国直前、「イエスを信ずる者の誓約」を書き学生に署名を求めました。

玄武丸上で学生の訓育について「余の道德は凡て聖書の中に存す、聖書を離れて余は道德を教ゆる能わず」と一歩も譲らず主張するクラークに、黒田清隆は「余り公然となすなかれ」と、ついに聖書使用を黙認します。

この時、札幌農学校生は、この聖書を福音を説くだけの「宗教書」として受け止めていたのではなかった。

内村鑑三は、「余の学びし政治書」のなかで「聖書を以て宗教的経文と見做すものは、その内容如何を知らざる者の言なり、聖書は其の過半に於いて最も高尚な政治書なり」「最良の政治書なり」「政治は単純なる明白なる人道を国家全体に適用するの学と術とに他ならず」と断言しています。

クラーク博士は、志願兵を組織し自ら南北戦争に参加し、ヒューマニズムの精神を身を以て示したのです。

後年病床のクラーク博士を訪ねた内村鑑三は「彼は余に語るに南北戦争の事を以てし」と述べ、臨終の言として「日本札幌に於ける8か月の基督伝播こそ余を慰むる唯一の事業なり」と伝えています。

内村鑑三の発言は、札幌農学校の教育思想の根底に、クラーク博士が身を以て示された民主主義と人道の原則が貫かれていること、ヒューマンイズムの根本問題が、戦争と平和の問題であることを示しています。

内村鑑三は聖書の教えに立ち、この問題に正面から立ち向かい、自らを絶対的非戦論者として立たしめ、「平和は戦争によって得られず」「平和への最捷徑は、無抵抗主義である」と説きました。

札幌農学校の教育

真理に立つ自主・独立の自修心

To do のまえに To be

新渡戸先生は第一高等学校の校長を去る時、小日向の自宅まで送ってきた学生たちに、

人格 [Personality] のないところに責任 [Responsibility] は生じない。知る (To know) だけでは十分でない。それを実行 (To do) することが大切である。しかし最も大切なことは、To be(あなたが、あなたとしてあること一湊晶子) と述べられた。To do の前に To be がある (南原繁) と。

クラーク博士は、黒田長官宛に提出した報告書の中で「国にして人なくんば国なきに等し、人にして精神なくんば人なきに近し、精神にして修養なくんば精神なきに近し。即ち修養を積める精神こそ最も重要な産物なり」

と述べています。

後年、札幌農学校生が自主的に発行した『札幌農学校』によると、クラーク博士が最も強調されたのは「自主独立の自修心、不撓不屈の精神」であったと伝えています。これこそ正に真理と平和に向かわせるものであった。

内村鑑三は、明治 20 年代から 40 年代にかけ、侵略政策を露骨に推し進める明治政府を厳しく批判した。当時多くの自由主義者が国権主義に転向する中、彼は、自らの誤りを公然と自己批判し、非戦平和の立場を貫きました。

「日清戦争を義戦」として支持した内村鑑三は自

らの誤りを

「余は良心に対し、世界万国に対し、実に面目なく感じた…余は爾来一切明治政府の行動について弁護の任に当たるまいと決意した」と。

また、「戦争より大なる悪事はなんでありますか…殺人術を施して東洋永久の平和を計らんなどということは以ての外である」と断じました。

遠友夜学校の半世紀の献身 (1894 年～1944 年)

人類は児童に対して最善のものを与える義務を負う

1924 年 9 月 26 日 国際連盟総会採択

With malice toward none

何人に対しても悪意をいだかず

With charity for all

すべての人に慈愛をもって

Inazo Nitobe 新渡戸稲造

新渡戸稲造は、自らの苦悩を経てクエーカーに入信し、同信のメリー・エリキントン嬢と結婚し帰国する。夫妻で、札幌・豊平河畔に貧しい子供たちのために、無料の遠友夜学校を創立し、自ら校長に就任しました。

校是は、新渡戸が最も尊敬するリンカーンをたてて「リンカーン精神に学べ!」、実際生活を通して学ぶ「学問より実行」でした。

当時の遠友夜学校生募集のビラ「文盲への宣言」には、新渡戸校長の設立趣旨を述べ、「熱心に勉強しましょう、努力は最後の栄冠です」「世界で唯一つの学校。これほどどんな人でも入れる学校はありません」「何時でも入れます」「月謝はいりません」「学用品は上げます」「先生は諸君の友達です」と呼びかけています。

この夜学校の教壇に半世紀無酬で立ちけたのは若き北大生でした。一日の労働で疲れた体に鞭打ち、睡魔と闘う黒い瞳の夜学生との火花を散らす真剣勝負が展開されたのであります。当時の子どもたちがどんなに大きな喜びと希望を抱いていたか知れません。

1894 (明治 27 年)、北海道での小学校の就学率平均 54%、女子の就学率わずか 34%でした。この中

で、無料の夜学校が開校されたのです。

遺品の中の一通の手紙

上田誠吉先生は、著書『人間の絆を求めて』のなかで「遠友夜学校」にふれて、

「ある日の夕方、あや子が夕食の準備をしていると、弘幸が顔を出した。夕食を食べていかないか、と誘うと、いまから夜学校にいったら教えてはならない、働きながら勉強している生徒たちで、みんな生き生きした顔つきで勉強している、あや子ちゃんなんか女学校に出してもらっただけでも感謝しなくちあ、二人交替で教えているから毎晩ではないが、生徒たちが熱心だから教える方も手が抜けない、などと語りながら夕暮れの街に消えていった。あや子は、女学校に出してもらっただけでも、という弘幸の言葉に、女子医専にいかせてもらえなくても、母をうらむ理由はないという弘幸の気持ちを感じとっていた。この弘幸の夜学校行きについては、照子にも似た経験がある。照子には、その学校は狸小路を通って、ずっと向こうにあると云っていた。この当時、勤労青少年のための夜学校で北大生が教師をしていたのは、遠友夜学校しかないだろう」

「のちに弘幸の妹、秋間美江子は弘幸の遺品を整理した時に一通の手紙があって、その文面は、石炭が欠乏して暫く休校していたが、何某の計らいで石炭が手に入り、再開することになったから出講して貰いたい、という趣旨の候文であった記憶がある。美江子はその学校の名前を記憶していないが、遠友夜学校だったに違いない」

一と記している。

明治42年(1909年)入学の小寺アキさんは、学校が楽しく、帝国製麻の会社から、素足で雪道を走って通ったと語っておられました。

門をくぐったのは5000人を超え、卒業生は千数百人を超えました。新渡戸の教えを受け継ぐ夜学校の教師は、倫古龍会(男子)、董会や羊会(女子)をつくり、それぞれ、「遠友魂」、「文の園」の会誌を発行し校是の精神を学び続けました。

昭和8年(1923年)から11年まで、教師を務めた平松勤氏は、当時を回想して

「私の68歳の人生を振り返ってあしかけ4年のこの時代ほど、他者との全人、格的関わり合いを持

ちえた日はない。たとえそれはお前の若き日の感傷に過ぎぬと言われても、敢えて言いたい。それは教師と生徒が一体になって融け合って燃え、白熱の輝きを放った短い日々であったと。そしてその融け合いの中で、今思うと、教えたよりも生徒に教えられたのである。生徒らは、……昼間の労働に疲れた体に鞭打ってきた。そして、年若く世間知らず学生らの取りえである一途の純粹さに、共鳴し琴線に触れあってくれた。果たして教師は我々で有ったと言えるであろうか」と。

戦時、夜学校の教師は、生徒の軍事教練を課しませんでした。「生徒に軍事教練を課さない学校、それは、存在に値する意義が無い」と軍の怒りを買う。遠友夜学校は、閉鎖を余儀なくされました。

遠友夜学校は、人間性と知性を磨き、児童の能力を全面的に開花させ、未来を拓く最も豊かな教育をめざしたのです。

戦後、教育勅語に代わるものとして、真理と平和を希求する人間の育成を目指して、教育基本法が制定されました。

その生みの親たる教育刷新委員会(委員長・安倍能成、南原繁)の主要なメンバーは、新渡戸稻造、内村鑑三の教え子達でありました。

しかし、集团的自衛の発動を視野に、憲法改悪を狙っていた第一次安倍晋三内閣が、「愛国心について述べられていない」と攻撃し、改訂された。

許せない大審院判決とその背後勢力

上告趣意書では、ぎりぎりの線まで、国側の主張を取り入れたかのように展開する。

宮澤弘幸が「中学時代に於いて一応日本精神忠君愛国の観念に徹したりと雖も、そはあらゆる思想に遭し思索と批判とを重ねたる後到達したるものに非ずして、半ば無批判的に受容したるものなるが故に、恰も思索力の旺盛となりたる青年期に際し、海峡を超えて札幌に遊び滋に全く異系の思想に接触するや青年思想の動揺性と相俟ち、従来自己の抱懐せる思想に懐疑を感じ之を批判するに至れるは故なきに非ず、其の思想的影響を受けたることレーン夫妻に於いて最も顕なることは被告人自身も認むるところ、而して、そが基督的思想たると共に国際主義思想たりしことは、被告人にとりて不幸なりし

ものなり。殊に、ハロルド・レーンは基督中に在りて最も良心的、個人主義的と解せらる清教徒にしてその思想は、国家主義に非ずして一種の国際主義たりし点に被告人に対して重大なる影響を及ぼしたるもの如し」

「思慮未だ定まらざる被告の如きに対しては危険なる異系思想たりしことは想察するに足る」

「旅行中見聞したる軍事上の施設等に付いてレーン夫妻に語りたる心事は、かの小児が成人の喜ぶところを直感じその歡心を買わんが為に語ると同じく」

「戦争は罪悪なりと信じ同胞殺すことは如何なる場合にも神の摂理に反すとして銃をとりて立つことをも忌避すと云うレーン夫妻の人生観を知る被告人として」(原文はいずれも旧漢字旧かな遣い)と述べ擁護している。

宮澤弘幸の量刑について、弁護人は「軍保護法」第7条の「過失に因り之を他人に漏洩し」の場合を主張したが、一蹴され、原判決に「不当なりと思料すべき顕なる事由あるを認めず論旨理由なし」と断じ、上告を棄却した。

宮澤弘幸は、誰が提出したか不明の退学届で、北大生としての学籍を抹消され、放置されてきたのです。この暴挙は許されるのでしょうか？

戦争につながる「偽」を認めず、人間として真っ当に生きた宮澤弘幸の名誉回復を！

先の国政選挙で、国防軍を！ 集団自衛権を発動せよ！ と叫んだ政党が、有権者の3割にも満たない得票率で、いま政権を握っています。そして国民を監視する「秘密保本法」の確立に狂奔しています。

人間として真っ当に生きた宮澤弘幸の生涯は、戦争につながる「偽」を最後まで認めなかったのです。戦争の歴史が証明しているように、侵略戦争は、すべて「偽」の上でなされている。

1931年の柳条湖事件(満州事変)も、日本軍が日本軍を攻撃させながら、逆に中国軍が攻撃してきたからと宣伝、ベトナム戦争の北爆も、アメリカが自国の艦を動員して、第7艦隊の駆逐艦を攻撃させながら、ベトナム民主共和国の水雷艇が攻撃してきたと宣伝して北爆を開始した。

アフガン戦争も、イラク戦争も、テロ組織が、アメリカを攻撃する大量破壊兵器を秘匿しているから、というのが開戦の理由であった。

全て「偽」であったといわねばなりません。宮澤弘幸は、如何なる拷問にあっても、この戦争への道につながる「偽」を認めなかった。

このままでは宮澤弘幸は殺されると判断した斎藤弁護士が、嘘でも訴因を認めるように必死に説得したが、宮澤は頑として「偽」を認めなかったのである。

戦後、新渡戸稲造と内村鑑三の教え子である南原繁は、教育刷新委員会の委員長として、真理と平和を希求する人間(個)の確立をめざす教育基本法を策定しました。

宮澤弘幸は、72年前、国民の間に相互不信を助長させ、人間の絆を断ち戦争への道を開く「偽」を認めなかった。

これこそ南原繁が、戦後、最初の教育基本法で求めた人間像ではなかったかではないでしょうか？ 72年前、「偽」を認めず、生命を賭して闘ったその宮澤弘幸の尊い生涯こそ受け継がれなければなりません。

その宮澤弘幸が、スパイの汚名を着せられたまま今日まで72年間も放置されているのです。こんな暴挙が許されているのでしょうか？ 人間として真っ当に生きた宮澤弘幸の名誉は当然にも回復されねばなりません。

また、当然にも、国と大学当局は遺族に対して謝罪しなければなりません。

わたしたちは平和憲法の精神を貫き、軍機保護法の犠牲者とその家族の悲劇を再び出させてはならないのである。

北海道大学関係者は、

平和と真理について

Be Ambitions でなければならない

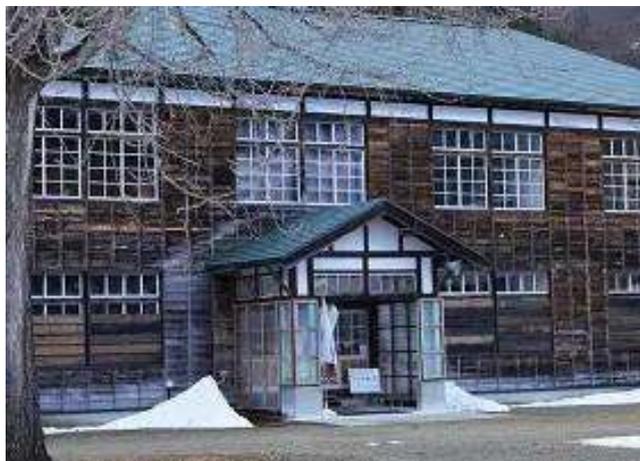
真理を壊す者に対して、

闘っていかなければならない

のである。

5. 寄稿「北大恵迪寮歌作詞者・山本玉樹さんを讃える」

村瀬 喜之（北海道大学 1968 年・工卒）



北海道大学恵迪寮歌「手をとりにて美しき国を」（昭和 28 年）の作詞者、山本玉樹さん（元北大講師）が 2 月 2 日、亡くなられた。

玉樹先生は、宮澤・レーン事件の「真相を広める会」の代表であり、平和と人権のために最後まで情熱を持ってたたかいた人だった。

彼は、北大に入学し、恵迪寮に入寮、寮歌「手をとりにて美しき国を」（三河勝彦君・作曲）を作る。

倒れたる友の姿を
忘るまじ我が胸に
恐ろしき雲空に充ち
けがれたる祖国の山河に
新しき緑の息吹が
若者の槌音に和し
もろ人の幸深めつつ
この町にこだます日まで

沸き出でよ新らしき歌
消すまじ自由の歌を
わだつみの声をばひめて
去り果てし若き生命に
たくましき若き鼓動が
美しき歌声に和し
平和なる国を築くと
海こえてこだます日まで

ぼくは玉樹さんの 10 年後に恵迪寮に入寮した。多くの寮歌のなかでも、この歌が好きで、いつも口ずさんでいた。

あるとき、ふと「倒れたる友とはだれ？」と疑問に思い、玉樹さんに「安保闘争で亡くなった樺美智子さんのことですか？」と質問したことがある。

彼はこう語った。

「ちがうよ。あれは鳥取の旧制中学で戦死した先輩のことだよ」

「僕は入学と同時に柔道部に入った。背が小さかったのが、先輩たちは『姿三四郎は背が小さくても強かった。お前も強くなれる』とあって、代わりばん練習相手になってくれ、負けてくれ、とてもかわいがってくれた。やがて、その先輩たちが次々と出征、特攻隊にいった。ほどなく白木の箱に入って次々に帰ってきた。それを在校生が全員、体育館に集まり『海行かば』をうたって何度も迎えた。先輩一人ひとりの姿が浮かんできて、涙が止まらなかった」

玉樹さんは、この反戦の原点を貫き、平和委員会や沖縄研究会などの活動にも支援を惜しまなかった。とくに、在日朝鮮人の人権を守る運動では、半世紀にわたり朝鮮学校に米を送ることもしていた。

ことしも「スパイ冤罪」で命を奪われた宮澤弘幸（工学部）先輩の没後 80 年の命日にあたる 2 月 22 日、菩提寺・常圓寺（西新宿）で、墓前のつどいをおこなった。

玉樹さんの遺志をうけついでですすむつもりです。玉樹先生、安らかにやすみください。

*

先年、玉樹さんから、小樽の伊藤権之助さんのことを聞いた。戦後、共産党の小樽地区の責任者もした方ということでした。とても感動した。

その記事を以下に紹介します。

蟹工船からの朝鮮人脱出を救う“応援しなくちゃいけん”

—元山ゼネスト（1929年）に連帯した伊藤権之助さんのこと— 山本 玉樹

【はじめに】 昨年（1995年）10月5日、村山首相（当時）は従来の「自由な意思」「対等な立場」という政府の認識を踏襲して、「韓国併合条約」は「法的に有効に締結され、実施されたものである」と答えた。王宮を軍隊で包囲し、皇帝に銃剣を突きつけて強要した「条約」が、「法的に有効でありえない」ことは明白ではないか。「条約法に関するウィーン条約」は「国の代表に対する強制」「武力による威嚇又は武力の行使による国に対する強制」の場合には、また「一般国際法の強行規範に抵触する条約」はすべて無効、と決めているのだ。朝鮮人民の「3・1人民蜂起」について述べるまでもなく、「植民地支配」に反対する朝鮮人民のたたかいそのものが「条約」の「不法・無効」を実証しているといえよう。

そして、日本人民の先達はこの植民地支配に反対する朝鮮人民のたたかいを支持し、連帯する闘争を一貫して展開してきたのである。

伊藤権之助さんはまさにそのたたかいを組織してきた生き証人であった。1929年10月24日「暗黒の木曜日」、ニューヨーク株取引所における株暴落に端を発した世界経済恐慌は、たちまち日本を襲い日本の独占資本主義体制を危機におとしいれた。日本の支配者は、日本人民にいつそうの収奪と抑圧を強いるとともに、なによりも、植民地の朝鮮人民を過酷に収奪・虐待して、この「経済恐慌の危機」を乗り切ろうとした。当時朝鮮の労働者、農民の生活は、悲惨そのものであった。賃金は飢餓を支えるのがやっとであった。そのうえさらに、いつそう収奪、抑圧するというのである。この日本帝国主義の企図に対して、敢然としてたたかいに立ち上がったのが元山労働者であった。

【日本での連帯闘争】 1928年9月、朝鮮の元山ライジングサン文坪石油会社の労働者は、日本人監督の暴行を契機に、耐えられない生活条件の改善、8時間労働制の実施、団体契約権の確立等を要求してたたかいに立ち上がった。1929年1月、このたたかい

は、元山労働連合会傘下の労働者3000人を包む「元山ゼネスト」へと発展していったのである。これに対して、日本の帝国主義支配者は、警察をはじめ、憲兵、軍隊を総動員して弾圧した。このとき、日本の労働者は無産者新聞に、元山労働者の「争議続報」を報じ支援を訴えた。昭和4（1929）年2月15日付無産者新聞は「元山総罷業に際し全日本の労働者に訴ふ」の元山労働者の訴えを1面トップで報じるとともに、元山の兄弟を見殺しにするな」の社説を掲げている。

「東洋における反動の支柱・日本帝国主義の為に、その政治的権力を奪われ、植民地とされ、その無慈悲極まる弾圧下に、骨までしゃぶるような搾取を受けている朝鮮の労働者が永い忍従の鎖を断ち切って遂に立ち上がる日が来た。……1枚のビラ、ポスターも出版法違反で引っ掛け、元山の労働聯合会の幹部は、続々検挙され、野蛮極まる拷問にかけられている。300余名の憲兵、400余名の在郷軍人、1000余の青年団員、消防夫等で元山全市を包囲し、剣つき鉄砲の軍隊300余名は市中を示威的行軍し、通行人は一々誰何され、争議団員は剣と鉄砲以て脅迫されている……同情罷業で元山労働者の罷業を援助せよ！元山及朝鮮行の貨物を積むな！元山の兄弟に争議資金を送れ！朝鮮総督府の暴圧に抗議し、犠牲者の即時釈放を要求せよ！……『植民地の解放』のスローガンは、日本の労働者階級と、全朝鮮の兄弟の共通のスローガンである……」と。

また、昭和4年3月13日の無産者新聞は「買収・拷問・銃殺只中に総罷業月余に亘る元山争議団より一日本の全労働者に訴ふ」を掲載している。このとき、日本の小樽、神戸の労働者は連帯ストを行って支援した。

【「問題の権（ゴン）」】 小樽でたたかっていた伊藤権之助さんは、この支援の闘争を組織された生き証人であった。当時、小樽港湾労働者のたたかいは、遠くフランスのマルセイユにまで伝わっていた。小

樽に伊藤権之助さんをお訪ねし、このときのたたかいをお伺いすると、「わしはな、警察から『問題の権』と呼ばれておった。『権が動くと、必ず問題を起す』と言うんだ。いつも警察に監視されておった。東京の全協（日本労働組合全国協議会）から、『朝鮮の元山の労働者が大変だ！ 応援しなくちゃいかん！』と言う連絡が来た。昔のことだから、細かいことは、ハッキリと覚えておらんが、マントの下にピラを隠してな。『朝鮮の元山の労働者が大変だ／ 応援しなくちゃいけん／』と訴えて回ったことだけは憶えている」と。

【官憲の追跡かわす知恵】 当時、小樽は函館とともに「蟹工船」の基地であった。小林多喜二は、彼の著書「蟹工船」で、船内の労働が如何に人権を無視・抹殺した過酷なものであるか、その「たご部屋」労働の実態を描き、「辺境」における帝国主義国家・日本の搾取と隠された侵略の意図を暴露し告発している。そのなかで、逃亡して捕まった「土方」を棒杭にしばり、馬の後足で蹴らせたり、土佐犬に噛み殺させたりする蛮行を記したあと、「近所に建っている監獄で働かされている囚人の方を、皆はかえって羨ましがった。殊に朝鮮人は親方、棒頭からも、同じ仲間の土方（日本人の）からも、『踏んずける』ような待遇を受けていた」と厳しく指摘している。この「蟹工船」には多くの朝鮮人が酷使されていた。そして、「蟹工船」内の朝鮮人労働者のなかでは「秘密の合言葉」があった。それは「権さんのところに行け！ 脱出できるぞ！」というものであった。

「蟹工船」が小樽に着くや、朝鮮人労働者は夜陰にまぎれて、甲板から海に飛び込んだ。そして、命がけで頭に刻んだ地図を頼りに、権さんを訪ねたのである。権さんは訪ねて来た朝鮮人労働者を迎え入ると、奥さんとともに素早く衣類を脱がせ、濡れた衣類を土中に埋め、乾いた衣類に着替えさせた。間髪を入れず追跡して来た騎馬警官が、一番先にやったことは、股間にいきなり手を入れて、股引がぬれているかいなかを調べるものだった。「わしはな、しまった！ と思った。はじめ、そこまでやるとは気がつかなかった。油断しておった。せっかく命がけで逃げてきた朝鮮人の仲間を奪われてしまったのだ。それからというものは、婆さんに（と机に置かれた奥さんの遺影を指し）どれだけフンドシを作らせた

か分らん。本当に！ どれだけフンドシを作らせたことか」。朝鮮人には、フンドシ着用の習慣がない（ソゴッー下着という意味－を着用）が、権さんは、朝鮮人労働者を確実に救うために、フンドシの一時着用を考え実行したのだ。

【玄関に「投げて」行った】 「あの人達は本当に義理堅い人だよな。おれは、あんなこと許せない、人間として許せないと思ってやっただけだ。ところが、あの人（朝鮮人）達は、決して忘れていないんだな。敗戦後のある日、『権さんいるか？』と玄関で大きな声がするから出てみると、『おれは、あの時の金だ！ 蟹工船から逃げてきた金だ！』『おれはあの時の朴だ！ 李だよ！ 今度祖国に帰ることになったんだ』『なんにもないけど、これは、あのときの、ほんのお礼の気持ちだ。権さん食べてくれ！ そう言って、豚肉やら、お米やらをドサツと置いて帰って行った！ おれは、米や肉に困ったことがなかった！

「権さんいるか？」「いるぞ！」と答えるやいなや、ドサーッと、天から、米や肉が降ってきた！ ドッサー、ドシンと玄関さ『投げて』行くんだ！ 「俺は、あの時の金だ！ 権さん元気だな！」と

1928年の「3.15」の弾圧、それに続く経済恐慌の襲来、日本の労働者人民が最も困難な状況にありながらも、伊藤権之助さんは、国際主義の精神を貫いたのである。戦後50年を過ぎた今日、日本の為政者は、「韓国併合条約」が「自由な意思」「対等な立場」で結ばれたと強弁し、朝鮮のその「植民地統治」まで有効と強弁して憚らないのである。自民党の「歴史・検討委員会編」の「大東亜戦争の総括」は、日本の侵略とその虐殺の美化・否定の最たるものであろう。他民族を抑圧するものには自らの自由はなく、歴史に逆らう者には木采はない。

「元山ゼネスト」支援・小樽港湾労働者のたたかい、そして「蟹工船」からの命がけの脱出を救った「伊藤権之助さん」等の不屈のたたかいは、日本人民の良心のたたかいであり、未来を照らすものである。継承されなければならないものである。

伊藤権之助さんは、その輝かしいたたかいについて、自ら語ることがなかった。1972年1月16日、伊藤権之助さんは逝去された。享年84歳であった。

（やまもと・たまき 北海道在日朝鮮人の人権を守る会）

山本玉樹さん追悼集発行にあたって

山本玉樹さんと初めてお会いしたのは、2012年11月12日、新宿・常圓寺で開催した秋間美江子さんと山野井孝有さんの北海道大学訪問報告会でした。

その日、山本さんは、付箋がいっぱいついた上田誠吉著『ある北大生の受難—国家秘密法の爪痕』はじめ資料を持参して、丁寧に話をされました。その後、何度もお会いすることになるのですが、いつもキチンとネクタイをして、端然とした服装を崩したことがありませんでした。

報告会では、この事件の真相を広めていくための運動を推進する組織を結成すべきではないかとの意見が出されました。毎日新聞での労働組合活動以来の長い付き合いのある6歳年長の山野井孝有さんの気迫込めた訴えにも押され、組織化となれば事務局を引き受けざるを得ないと覚悟しました。以後、準備を始め、8頁で紹介のみなさんの賛同を得て「真相を広める会」の結成に至りました。

こうして札幌在住の山本玉樹さんとの手紙・FAX・メールでのやり取りが増えました。山本さんからの手紙にはいつも、用件に加えその時々課題に関する意見や資料が右上のように同封されていました。

2014年6月30日付の一文を紹介します。

*

戦時特攻隊員を見送った最後の世代の一人として、現安倍政権が憲法破壊の集団的自衛権発動し、地球の裏側にまで出かけて、米軍を援け戦争することなど絶対に許されることではありません！

1999年5月、オランダのハーグで開かれた第1回万国平和集会百周年を記念して開かれた『平和アピール市民社会会議』は、全世界から1万を超える平和活動家を結集し、最終日『公正な社会秩序のための10の基本原則』を満場一致で採択しました。その第一条は『各国議会は日本国憲法第9条のように、政府が戦争することを禁止する決議を採択すべきである』です。憲法九条が人類の宝であり希望であること、日本人民の誇りであることを強く感じました。

昨年亡くなられた国際的な循環器外科医の北大医学部安田慶秀名誉教授（沖縄出身）は、『山本さん、沖縄では、この「宮澤・レーン事件」のような悲劇は、日常茶飯事だったんです！』と述べられていました。私が肝に銘じている、沖縄の平和祈念資料館展示のむすびの言葉を、感謝を込め、贈ります。



山本玉樹さんが送ってくださった資料の一部

沖縄戦の実相にふれるたびに／戦争というものは／これほど残忍で／汚辱にまみれたものはないと思うのです

このなまなましい体験の前では／いかなる人でも／戦争を肯定し美化することはできないはずで／戦争をおこすのは／たしかに人間です／しかしそれ以上に／戦争を許さない努力のできるのも／私たち人間ではないでしょうか

戦後このかた私たちは／あらゆる戦争を憎み平和な島を建設せねばと思いつづけてきました／これが／あまりにも大きすぎる代償を払って得た／ゆるることのできない／私たちの信条なのです

ご友情に感謝を込めて 山本玉樹

*

山本玉樹さん、ありがとうございました。
心からご冥福をお祈りします。

(福島 清)



事務局たより号外
追悼 山本玉樹さん
2026年3月10日

発行
北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の
真相を広める会・事務局

事務局
福島 清 misuzuya@jcom.zaq.ne.jp
190-0001 立川市若葉町 1-24-60-7312

